

本 詩集 十歳の夏まで戦争だった

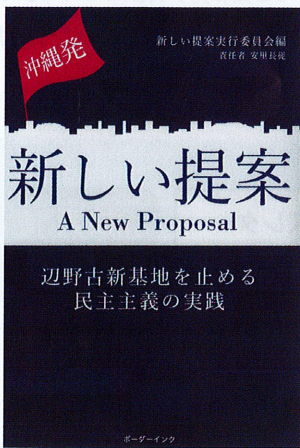
戦争の記憶が
映像のように浮かんでくる17篇の詩

福島県南相馬市在住の詩人、若松承太郎の詩集。戦局が悪くなっていく1935年前後の状況が、著者が十歳のころの鮮やかな感性で切り取られています。学校や友達、生活などの視点で綴られた17篇の詩によって、まるで著者と同じ目線で当時をリアルタイムに体験しているような気持ちに。重い情景が暗くのしかかる詩には、思わず息苦しさを覚えてしまうほどです。

日本は今、平和なのでしょう。終戦から74年経った今も地球上に戦争があり、子どもたちが苦しんでいる。著者が見たこれらの風景は、私たちの子どもや孫世代が目にする風景になってしまうかもしれない。終戦の日に刊行されたこの詩集から今、我々が学ぶべきことは何かを問われる一冊。

著者 若松 丈太郎
出版社 コールサク社 (2017/8/16)

本 沖縄発新しい提案-辺野古新基地を止める民主主義の実践



そうだ、その手があったのか!
大切な提案を、今こそ。

著者 新しい提案実行委員会
出版社 ボーダーインク (2018/5/1)

強行されようとする辺野古新基地建設に対して、憲法と民主主義の原則に則りながら、公正で民主的な解決を訴える画期的な提案本。安保や基地の必要性を含めて「国民全体」での議論を訴えます。

DVD いのちの海 辺野古大浦湾



辺野古の昔と今を鮮やかに映すドキュメンタリー

米国の戦争のために、人間やジュゴン、ウミガメなど多くのいのちが破壊され奪われようとしています。辺野古大浦湾のリアルな記録。

監督 謝名元慶福
語り 佐々木愛
出版 「いのちの海 辺野古大浦湾」制作委員会 (2017/9)

編集後記

生まれた国や人種、性別、世代、ハンディ、文化の違いを「あ、そう。そうなんや」とさらっと受け止める明日へ

アメリカで結婚した友人が2人目の養子を受け入れた。10代の女性の赤ちゃんを。陣痛の知らせで分娩室に駆けつけ、出産後メディカルチェックを受けたらもう引き取れるのだそう。この話に驚きとうらやましさを感じました。日本ではこんなにスムーズに事が運ぶのでしょうか。親として、子どもが大人になった時、いろんな人が生きやすい世の中を残すために、様々な角度から見て声を聴き、知らない事を少しずつでも知っていききたい。(S)

箕面市人権啓発推進協議会 ニュースレター

初版第一刷発行 2019年10月 Copyright ©箕面市人権啓発推進協議会

発行:箕面市人権啓発推進協議会
大阪府箕面市萱野1-19-4
箕面市立萱野中央人権文化センター
(らいとびあ21) 2F

お問い合わせ・ご相談はこちらから
072-722-2470
FAX:072-722-2470
jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp

箕面市人権啓発推進協議会について詳しくはwebサイトへ
<http://wat-minoh.sakura.ne.jp/>

箕面市人権啓発推進協議会

検索



人権の人ひと

INTERVIEW

身のまわりを人権の視点から見て
気づき・考え・声に出すまちづくりを

Q.人権協会長になった経緯と、今の思いを教えてください

箕面市人権啓発推進協議会(人権協)の前会長で現相談役の仲野さんからの「岡本さん、会長をやってくれないか」の声かけから、総会で承認いただき会長になって1年少しが経ちましたね。新卒から定年退職までずっと教育現場にいましたので、自らや子どもたちの人権感覚を高め育てることに敏感でなくてはならない職場で過ごしてきました。

人権問題は様々ですが、殊に私が日々接してきたのは同和問題。1969年の「同和対策事業特別措置法」成立以来、教育上の格差の解消や住環境の改善等大きく前へ進み、また、人々の人権意識も高まりました。しかし解決には程遠く、入学前の保護者から「SNSで部落地域の情報を見たが、この学校は荒れていないか」と学校に電話があったり、差別的な落書きがあるなどを目の当たりにしてきました。

小中学校では在日外国人・障害者・男女・同和問題など、人権についての授業が行われます。問題なのは、高校で受験に追われ、大学では専門や学部を選択しない限り人権教育に触れる機会が無いことです。小中で培われてきた子どもの人権意識がそこで途切れ、18歳で選挙権を手にするも、人権感覚が希薄なまま投票に行く(もしくは行かない)

箕面市
人権啓発推進協議会 会長 岡本克己さん

福井県出身。新卒で箕面市立第二中学校教員職に就いて以来、学校教育の道を歩む。箕面市教育委員会事務局員、第二中学校校長、第三中学校校長を歴任。退職後は教育専門員として島本町教育委員会に赴任し、その後2018年5月に箕面市人権啓発推進協議会の会長に就任。

という事態に。大学は一般教養科目で人権教育を必須化するなど力を入れてもらいたいですね。当事者を講師にした人権協主催の出席講座も活用いただきたいと思います。

Q.これからの人権協が目指すところは

未来志向の話をしていくことがとても重要です。同級生や部活仲間などとして関わる友人が、もしヘイトの対象となったら。友人の人となりを知っていることがエネルギーとなり「人権を踏みにじってはいけない」と声をあげることができます。ぜひ、あたりまえに関わりましょう。差別をなくし共に生きる社会を決してあきらめず、今も歩み続けておられる多くの市民や団体があります。あたりまえの人間関係を追求し実践されているグループが数多くあります。そのような点する活動をつなぎ、箕面の小学校区にある「人権協地区協議会」が全ての小学校区に設置され、地域の実情に合わせた形で相互連携し、草の根運動として「ともに学び、ともに働き、ともに生きる地域社会」のネットワークを強いものにしていけたらと願います。

第34回 いっさいの差別を許さないために
話す、語る、伝える、分かち合う
みのお市民人権フォーラム

**格差社会を生き抜く
“私たち”のリアル**

仁藤 夢乃
女子高校生サポートセンター
一般社団法人Colabo代表理事

全体会 2019年12月7日(土)
13:00- 13:30-
グリーンホール(箕面駅前)大ホール

分科会 2019年12月8日(日)
会場・時間は分科会によって異なります。

オープニング 和太鼓

いよいよ開催間近!第34回みのお市民人権フォーラム 同じ空の下に生きる人、それぞれのリアルを感じる2日間

市民の皆さんとともに創ってきた「みのお市民人権フォーラム」(以下、「フォーラム」)。今年度は27団体の実行委員、26団体の協賛、1団体の協力、及び箕面市・箕面市教育委員会の後援を受けて、34回目のフォーラムが12月7日(土曜日)、8日(日曜日)の両日に開催されます。

全体会記念講演には、女子高校生サポートセンター一般社団法人Colabo(コラボ)代表理事の仁藤夢乃さんをお迎えします。「すべての少女に衣食住と関係性を。困っている少女が暴力や搾取に行き着かなくてもよい社会に」を合言葉に中高生女子のサポート活動をされている仁藤さんから、「格差社会を生き抜く“私たち”のリアル」と題してお話をいただきます。また、オープニングには和太鼓・絆(きずな)が登場。2日間に分けての6つのテーマ分科会においても創意工夫の準備がなされています。国内外の多様な人権課題について触れ、人権を考える良い学びの場となりそうです。

さて、今年は谷口さん、村山さんに、フォーラム開催に際して人権協事務局をサポートいただいています。お二人が



2019年10月9日(水曜日)13:30~にらいとびあ21で開催された、第34回みのお市民人権フォーラムの第四回実行委員会。実行委員や構成団体が集まり、パンフレットや実施内容について確認しました

らコメントをいただきましたのでご紹介します。

谷口:この仕事に関わらせてもらうなかで、様々な人となることができ、また勉強になりとてもうれしく思います。フォーラム開催中に、さらに多くの方々にお会いできることをとても楽しみにしています。

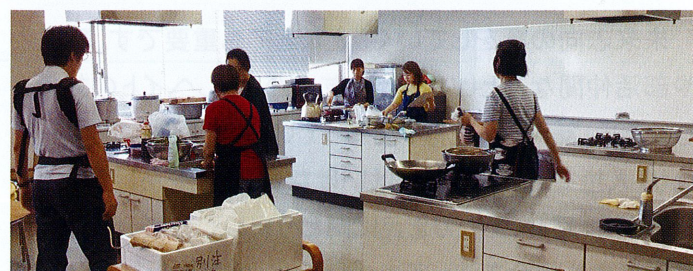
村山:最初は漠然としか掴めていなかった人権テーマや仕事内容について、やり取りや作業を重ねていくうちに、より深く、具体的に掘り下げて理解できてきたと思います。関

わらせて頂いた以上は、面白く、心惹かれる催しにさせていただきたいと思いますので、微力ながら頑張ります。このフォーラム開催がより広く知らされ、様々な方々の耳に入り来場いただければ事務スタッフとして嬉しく思います。

ひとつながりの空の下に生きる人の、自分とはまた違うリアルを感じることができるこの2日間。人権についての理解を深め、ともに考え、行動するきっかけにいただければ幸いです。

研究部会からのお知らせ 人権協の4部会それぞれからの活動報告です

在日外国人問題啓発研究部会



国籍を問わず、参加を募集しています

私たちはトッキの会(箕面市在日韓国・朝鮮人保護者の会)と連携して活動しています。月1回の定例会で話しあうほか、料理教室やフィールドワーク、学習会などを行っています。多民族フェスティバルや人権フォーラムなど、対外的な取り組みにも積極的に参加しています。

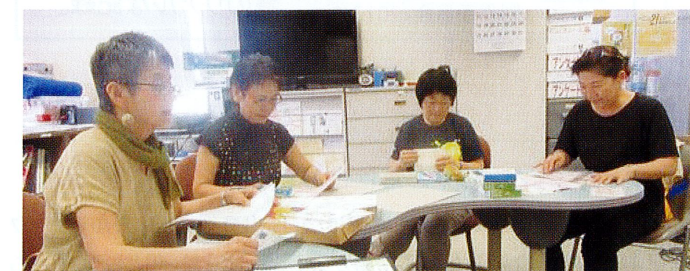
障害者市民問題啓発研究部会



部会活動にお気軽にお越しください

こんにちは。「障害のあるひとと無いひと、互いに尊重しあい笑顔になれる街みのお」を目指して啓発研究活動をしています。奇数月第1土曜日の13:30から福祉センターささゆり園での定例会を開催し、人権啓発学習会や情報交換など色々開催しています。

男女協働参画啓発研究部会



パーソナル・イズ・ポリティカル

この猛暑のなか、3年ぶりとなる「ジェンダーかるた」改訂版づくりに奮闘する部会員たち。9月に予定している「被災地訪問スタディツアーin福島」では、このかるたで福島の女性たちと大いに盛り上がりたと思います。今年度も「個人的なことは政治的なこと」の考え方を軸に活動しています。

同和問題啓発研究部会



『あぶらかす』料理で思いを馳せる

私たちは現在7名で地域と連携して部落問題・人権問題について学ぶ場を提供しています。部員募集中です!部落問題を身近に感じ考えるために、今年度は暮らしや歴史をテーマに設定。第一弾として部落の伝統的な食材である『あぶらかす』料理にチャレンジ!おいしくいただきました。



箕面市人権啓発推進協議会 ニュースレターはHPからもご覧いただけます。

箕面市 人権協 ニュースレター

検索